

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 28日から30日にかけて、高気圧が日本海から日本の東へ移動する。
- 期間を通して、日本のはるか東から日本の南にかけて高気圧が張り出す。
- 7月1日から2日にかけて、前線が北日本から東日本に南下する。

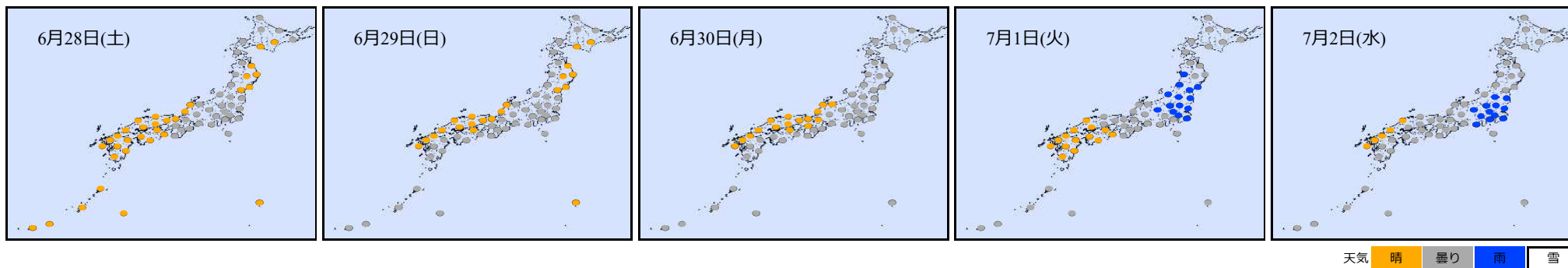
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 沖縄・奄美は、28日以降気温が高くなり、最高気温が33度以上になる所がある見込み。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

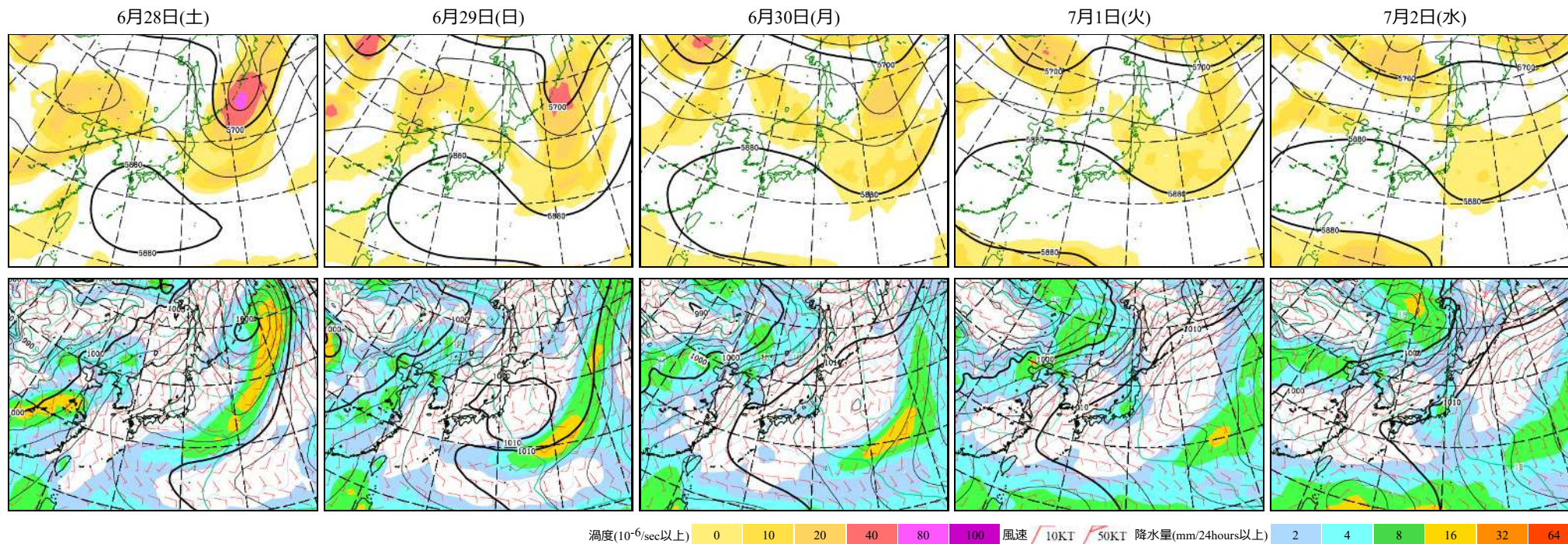
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

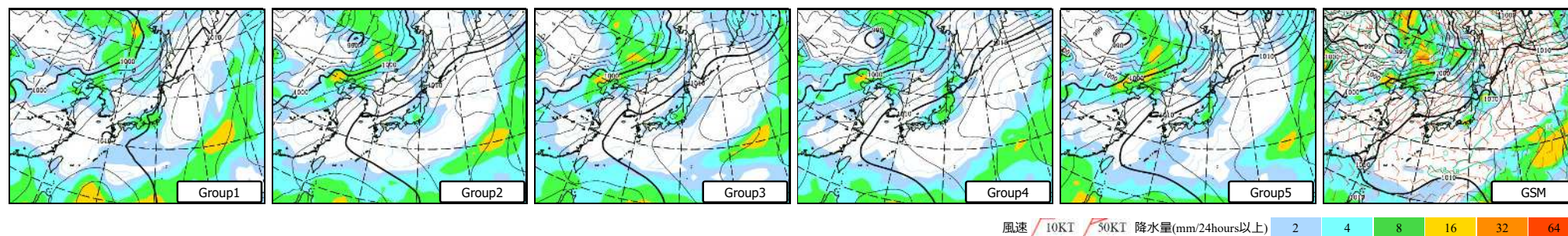


- 北日本は、曇りや雨の日が多いが、28日と29日は晴れる所がある。
- 東日本は、曇りや雨の日が多い。
- 西日本と沖縄・奄美は、曇りや晴れの日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月1日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、28日の千島近海の低気圧の東進が早くなり、30日から7月1日にかけて日本の東の高気圧の張り出しが北日本と沖縄・奄美で強くなった。降水確率ガイダンスの値は、1日の関東地方付近で高くなった。
- スプレッドは小さいが、期間の終わりの5700m線の北への張り出しにはばらつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。